

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101749		
法人名	きり健康生活協同組合		
事業所名	なごみの家		
所在地	福島県福島市北沢又字下台前1-2		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個々の生活を大切に、1人1人に合わせた支援が出来るよう努力しています。そのためにもご家族とのコミュニケーション、スタッフ間の状況共有も大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的で和やかな環境の中で、地域とのつながりを大切にしつつ安心して暮らせるよう支援している。
 家族の訪問の機会も多く、管理者はじめ職員とも利用者のケアの情報を共有しながら協力体制が取られている。
 事業所内のコミュニケーションもよく、出された提案や意見がケアの改善に迅速に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、スタッフ間で事業所理念をもとに各棟で理念を立てている。また、その理念を実践できるように月2回の会議を通して話し合い振り返りを行っている。	月2回のスタッフの合同会議とユニット毎の会議で理念に基づき、月ごとの活動計画を決めている。年度ごとに理念は見直され、ケアの中で実践として生かすようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	所属地域の総会へ参加している。また、地域の方、民生委員の方に運営会議に参加していただいたりしている。こちらからの積極的な地域への参加は少ない。	利用者は地区の小学校や幼稚園での発表会等に招待され、地域の一員として交流している。地域包括センターの協力で地域の方に事業所を見学していただき、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度に入り、地域住民向けに認知症の学習会を開催している。法人でも動いており、今後も継続して企画等をしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、時には学習会を開催するなどサービスの向上に努めている。	会議の開催は年に何回かは休日にも行っている。家族の方の参加を呼びかけ、多くの意見を頂きサービスの向上に役立てようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取り、相談をしたり、助言をいただいたりしている、	市町村の高齢福祉課からは、外部研修などの予定を頂いている。利用者の住所は事業所におけないが、様々な事情による相談等には乗っかってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。玄関の施錠をしないことは勿論、入居者の意思を尊重し、日々意識して身体拘束のないケアに取り組んでいる。	帰宅願望や外に出たがる利用者に対しては思いを受け止め、落ち着くまで話をしたり一緒に外に出たりして身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者含め職員は、高齢者虐待防止について学習会などへ参加し理解を深めている。また、日々、見過ごされることがないようにスタッフ間で確認しながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人での後見人、権利擁護に関する学習会などへ参加し、理解に努めている。個々の必要性に関してもスタッフ間で確認しながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適時のご家族・入居者への説明と話を理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、電話連絡時等に意見を聴ける機会を作るよう心がけて対応している。また、聴きばなしにせず、要望に関してはスタッフ間で話し合い、結果をご家族に戻すようにしている。	請求書や領収については手渡しとしているため、面会の機会は多く、その時に意見や要望を頂きサービスの向上に反映させている。頂いた意見は職員間で共有するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談以外にも日々声をかけてもらえるよう努め、意見や提案を反映させられるように努めている。	代表者や管理者は、事業所の運営や大事な事項に関して、職員の意見や要望を聞こうとしている。管理者との月2回の会議や、法人の役員も職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者へは、管理者から面談や仕事状況を伝え、状況を把握してもらうよう努めている。また、代表者は、年1回のアンケートと2ヶ月に1度の事業所管理者会議で状況を把握し、各スタッフが向上心を持てるよう努めて下さっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は特に、法人の目標として人材育成があり、日々トレーニングが出来る環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等の機会を設け、他事業所との意見交換などサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時や入居日などに本人の要望を聴いたり、安心する材料を確認したり等、その方にあったサービスが提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際など家族が話しやすい環境をつくるよう努めるとともに家族との関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聴いたうえで必要なサービスをスタッフ間で話し合い、初期のサービスを提供し、初期の内容は必要に応じ、短期間で見直しをしながら提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることは無理なく行ってもらう事に努め、つまづく前に手伝う等、時にはスタッフが教えてもらったりしながら共に生活していることを意識して、寄り添ったケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の負担にならない程度に面会や行事などに参加していただき、本人との関わる時間を持っていただけようとしている。その際、日々の様子を伝えることも大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人知人が面会に来られたり、会いに行ったりするときはゆっくり過ごせる環境を提供するよう努めている。必要に応じ、一緒に了解のもと入らせて頂き、話題の提供なども行う事もある。	訪問や面会は家族の他、地域の住民や友人が多い。楽しくゆっくり過ごせるよう場所を確保し、時に職員も話の中に入り、親しみを増す関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の会話やお互いを気遣う様子も見られることがある。スタッフも入居者同士が関われる交流できる環境を提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族が電話や来所されることがある。その際は、ゆとりを持って対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向を聴いたり、本人が難しい時はご家族に確認するなどしている。それでも困難な場合もあるので、その際は、その方の気持ちになって様々な状況から希望や意向を見つけるように努めている。	利用者一人ひとりの思いを、さりげなく見守り受け止め、把握するようにしている。動作や仕草にも注意を怠らないが、それでも難しい場合は職員間でケアを変わり合ったりして複数の視点からも意向の理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の生活やサービスの把握をし、必要に応じ、サービス事業所から情報をもらうなどし、カルテ等記録に残し、スタッフ全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状況を都度細かくカルテに記入し、スタッフ全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合ったものを会議で検討し、必要に応じて、リハ、医療分野にも連携をとりながら現状に合ったプランを作成する努力をしている。	一人毎の担当者制を取りつつ、利用者のケアの情報は職員全員で共有している。本人、家族の視点に立ってその人らしく暮らせるよう、必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のカルテに様子や気づきや対応をし、実践したことでどうなったかの記入をす、共有しながら次のプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状況に合わせ、他職種(ナース、リハ、栄養士、医師、ケアマネ)とも相談し、それを出来る限り本二の二一ぞとして対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、包括職員等に意見を頂きながら、地域の方の慰問等行っているが回数は少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を継続してもらいながら、毎回情報を作成し連携をとりながら支援している。	多くの利用者は入居前からの主治医に家族付添いのもと受診して、受診結果は家族から伝えて頂き共有するようにしている。職員からは薬の管理や利用者の状態が家族に詳しく伝えられ、受診に役立つようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づき等、訪看に報告・相談しながら適時適切や医療が受けられるよう努めている。また、ナースからDrへ情報を提供し指示をいただいたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に情報交換をし、入院時も病院と連絡を取ったり面会に行ったりしている。退院時は、病院・家族・スタッフでムンテラを行うなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてのこちら側の指針を提供説明し、同意を得ている。また、本人・家族からは適時、重度になる前から何気ない会話から聞き取りをし、記録に残すなど努めている。重度化・終末期にはDrを交えて話し合い、方針を共有している。	重度化や見取りに際しては、入居時に事業所でできることの指針を中心に、利用者及び家族とよく話し合いをしている。重度化した場合には、本人・家族の意向を元に主治医と話し合い、対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な学習会へ参加し、急変時・事故発生時の対処方法などを実践を身につける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し、定期的な訓練を行っているが、地域との協力体制は弱い。隣接の老健とは連携を密にしている。	非常時の備蓄として3日分の非常食類を準備している。 年に1回は消防署立ち合いで避難訓練を行っている。	地域の消防団の協力を得て、非常時の対応について協力していただけるようにしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る前の声かけや浴室・トイレ等での視覚・聴覚・嗅覚へのプライバシー保護を実施し、言葉かけや態度にも気をつけている。	居室に入るときは、必ず一言ことわり、夜の巡回の時はプライバシーに注意しつつ見守りをしている。排泄の時も周りに気づかれないようさりげないことばかけに工夫し、尊厳を損ねない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出や自己決定が言葉や態度であらわせる方への支援は勿論、困難な方に対しては、日々の表情や行動をよく観察し、想いや希望を感じとり、その人らしい生活が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースを優先にし、職員の決まりごととは必要最低限にし、その人らしい日々が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の志向に合わせて聴き取りや場合によってはご家族への確認、昔の写真を見せていただくなどその方らしい身だしなみおしゃれが出来るよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理等家事一般を手伝っていただいたり、食事を感じられるよう視覚・嗅覚・聴覚を刺激できるような調理の工夫に努めている。	本人の意向によっては家族の同意のもと、外食でラーメン店や寿司店で食事を楽しむこともある。配膳や後片付けも職員と一緒にやって行う利用者もいて、同じテーブルで会話しながらの和やかな食事風景が見受けられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や習慣に応じ、日々の摂取量を把握したり、献立の見直しをしたりと支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り、毎食後、9名が口腔ケアを行うように努力しているが、日に1階のときもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせたタイミングを把握し、また、パットの使用なども個々に合わせて種類を選んでいる。出来る限り、本人の自信を持っていただきながら支援している。	一人ひとりの排泄パターンに基づき、自立に向けて支援している。利用者のサインや表情を見逃さず受け止め、さりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品では乳製品・オリゴ糖等を使用。また、日中の活動等にも考慮している。それでも困難な場合は、訪看、Drに相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべくその方の入りたい時に入ってもらえるよう努力はしている。また、重度者へは、清潔が保てるよう支援している。	毎日入浴できるようにはなっていて、個別に合った入浴ができるようになっている。一人でゆっくり入りたい人には、安全に配慮しながら、職員は席を外したりして楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々、日々の生活を確認しながら、個々に合わせて休息の機会や安眠への支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更になった際は、変更の理由や作用・副作用など、職員が把握し、その変化を情報に残しDrに伝えるなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態によって出来ることはなるべく行って頂き、役割を持って生活できるよう支援している。なるべく、声かけや関わる時間を多く持ち、笑顔のある生活をしていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の買い物・外食・散歩等行う努力をしている。また、時期によってドライブや花火観賞、祭り等に参加し、外に出れる環境に努めている。	地域や事業所の行事等で外出する機会を多くするようにしている。家族の協力を得ながら、本人の懐かしい場所や、行きたい所へ出掛けられるよう積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理されている方もいる。お金をこちらで管理し、買い物時等個々に対応する場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者もいる。また、電話をお貸しし家族へ電話される方もいる。家族からの電話に出ているなども行っている。手紙のやり取りも数は少ないが数名行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やスペース、温度・湿度等に気をつけ、居心地の良い空間を提供できるよう努めている。	居間では、適度な温度管理がなされ冬場の体調管理の為湿度にも気が配られている。壁面には事業所の年間行事の写真や利用者の作品も楽しく貼られ、和やかな雰囲気づくりに工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり、安心できる場所でくつろいでいただけるよう努力はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	なるべく、本人・ご家族と相談しながら居室づくりをしている。居心地・安心も大切にしているが、安全面にも気をつけている。	居室は畳の部屋であっても手すりを備えたり、好みでベッドを使用したりして、心地よく暮らせるよう取り組んでいる。馴染みの机や筆筒を持ち込み、家庭での生活と違いを少なくする配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の自立につながるような環境作りを心掛けている。定期的に見直しをし、個々の重度化へ向けての安全で快適な環境を作れるよう日々努めている。		